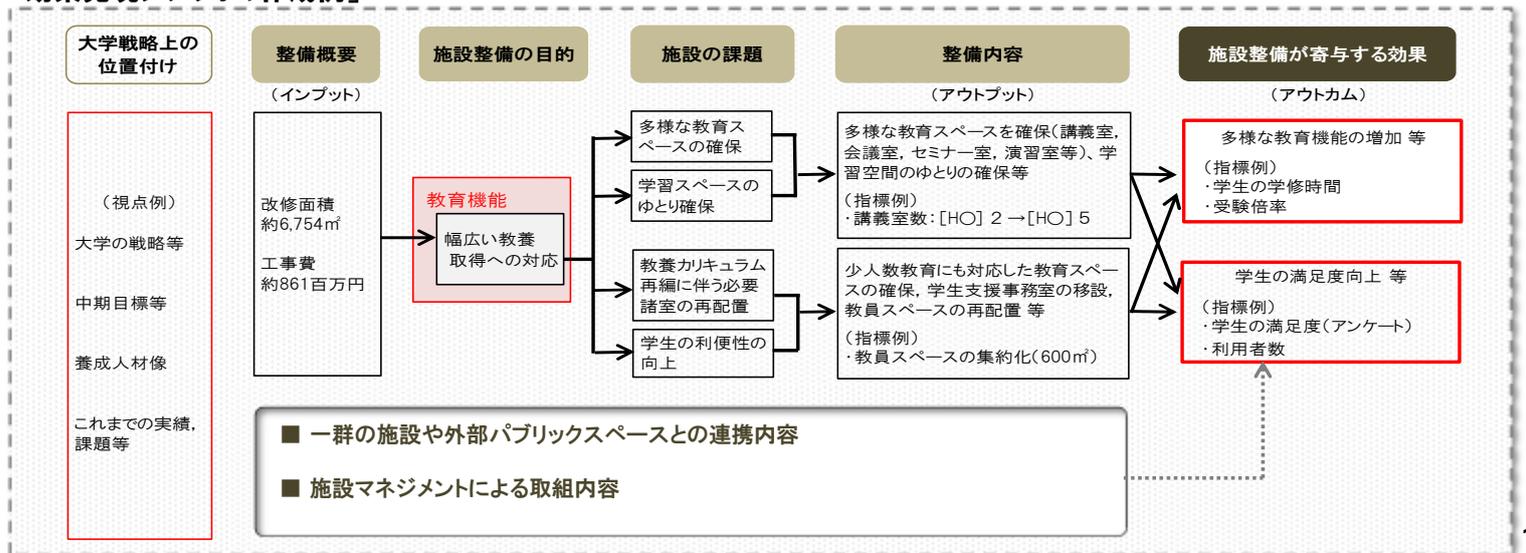


教育研究上の効果を見据えた施設整備の推進に関する試行的取組

- 施設整備の基本計画段階において、施設の課題に対応し、想定した教育研究上の効果を創出するための整備内容を検討することが重要。
- また、整備後は具体的な効果を測定するとともに、計画時に想定した効果が期待どおりに発揮しているかを検証し、その結果を踏まえて、今後のキャンパス全体の施設整備方策や個別施設の整備計画に反映させるなど、PDCAサイクルによる取組を行うことが重要。
- 国立大学等の実情に合った効果的な方法を検討するため、試行的にPDCAサイクルによる取組を12大学等に依頼（平成25年4月）。

「効果発現シナリオの作成例」



教育研究上の効果を見据えた施設整備の推進に関する試行的取組

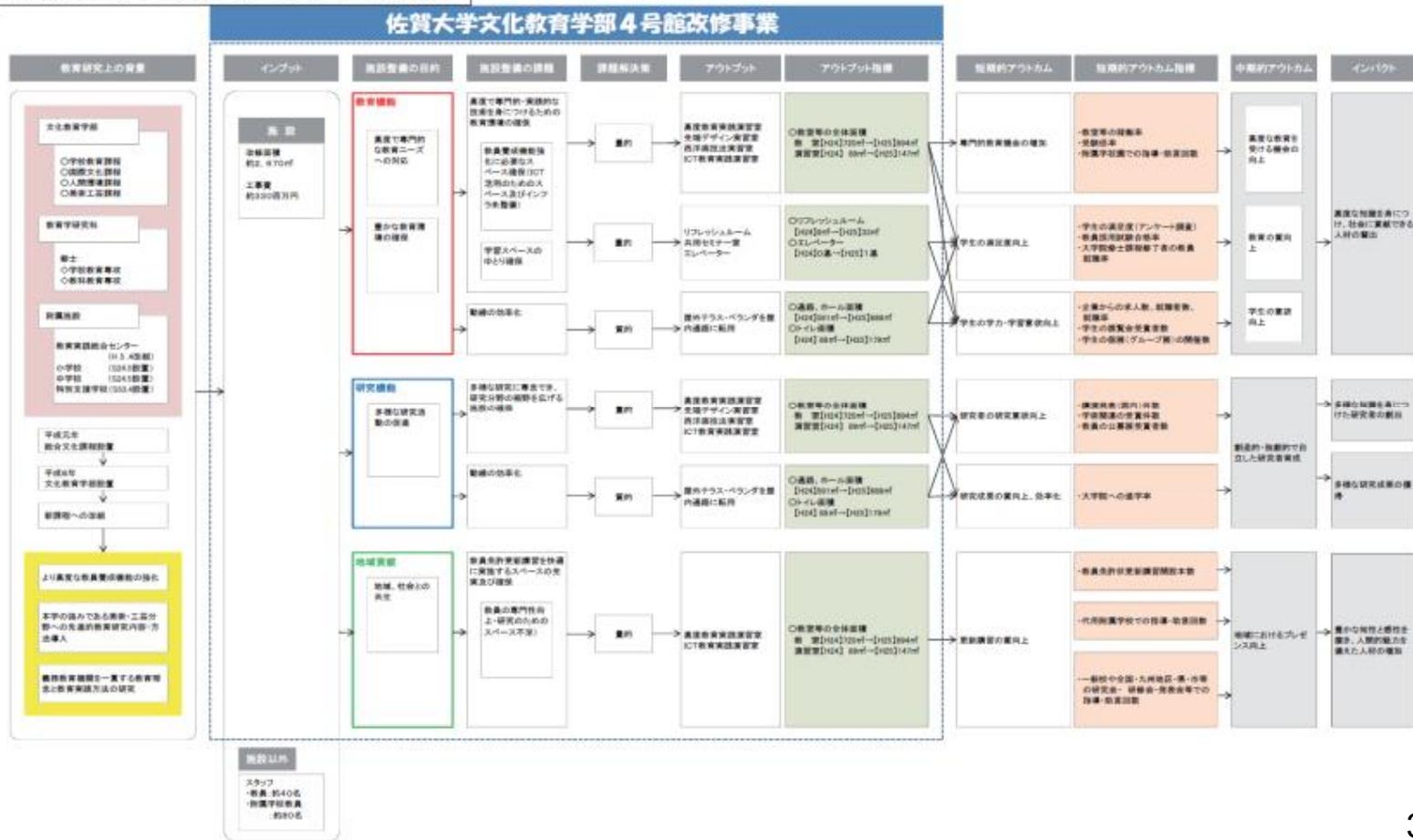
【特徴的な取組例】

- 【取組例1】佐賀大学
⇒ 教員養成の機能強化に対応した空間配分の見直し、改善内容の見せ方の工夫
- 【取組例2】宇都宮大学
⇒ 教員・学生との協働による課題の可視化、課題や学習形態に対応した教育空間の提示
- 【取組例3】九州工業大学
⇒ 大学の教育目標を踏まえた、学生の資質・能力を伸ばすための効果的な空間の創出

【取組例1】佐賀大学

～教員養成の機能強化に対応した空間配分の見直し、改善内容の見せ方の工夫～

佐賀大学文化教育学部4号館改修事業の効果発現シナリオ



佐賀大学

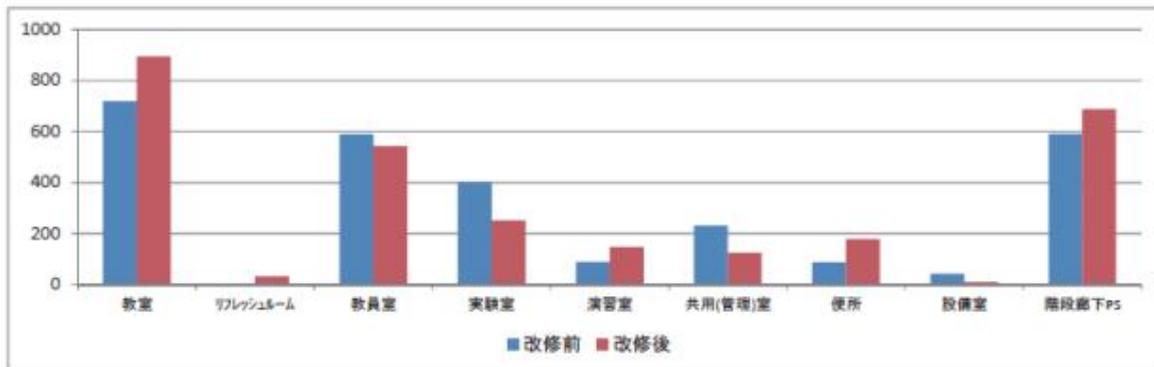
佐賀大学(本庄町1)総合研究棟改修(文化教育学系)

施設面積表(2)

上段:面積(m²), 下段:占有率

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	合計
	教室	リフレッシュルーム	教員室	実験室	演習室	共用(管理)室	便所	設備室	階段廊下PS	
改修前	720	0	589	402	89	232	88	43	591	2,754
	26.1%	0.0%	21.4%	14.6%	3.2%	8.4%	3.2%	1.6%	21.5%	100.0%
改修後	894	33	543	252	147	125	179	10	688	2,871
	31.1%	1.1%	18.9%	8.8%	5.1%	4.4%	6.2%	0.3%	24.0%	100.0%

※参考 → 教室、実験室、演習室の区分が困難であるため、上記表のA+D+Eの数値を比較する。
 【結果】改修前… 1,211 100㎡程度教育・研究スペースの拡充が図られている。
 改修後… 1,293



■改修事業による平面計画の考察(主要事項)

- ・教員専用スペースを縮減(46㎡)した。
- ・便所面積を増加(約2倍)させ、アメニティの拡充に努めた。
- ・本棟から大会議室(149㎡)をなくすことで、教室等教育・研究スペース拡充を実施した。(高度教育実践演習室ⅠⅡⅢ、ICT教育実践演習室)
- ・設備室の集約化によりリフレッシュスペースを確保した。
- ・屋外テラス・ベランダを室内廊下とすることで、利便性の向上を図った。

【取組例2】宇都宮大学

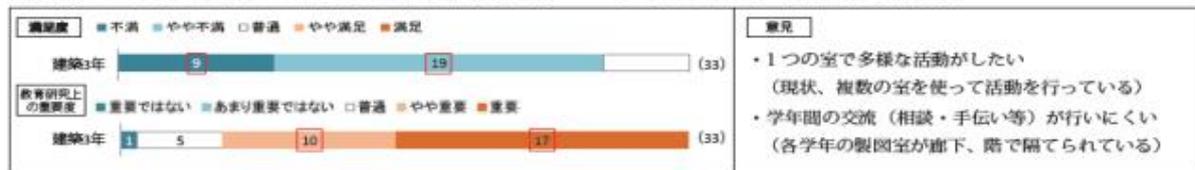
～教員・学生との協働による課題の可視化、課題や学習形態に対応した教育空間の提示～

改修前 満足度・重要度調査 2012.10

- ・対象者：教職員、研究室所属学生、学部2・3年生
- ・各スペースについて、満足度、教育研究上の重要度を5段階で評価

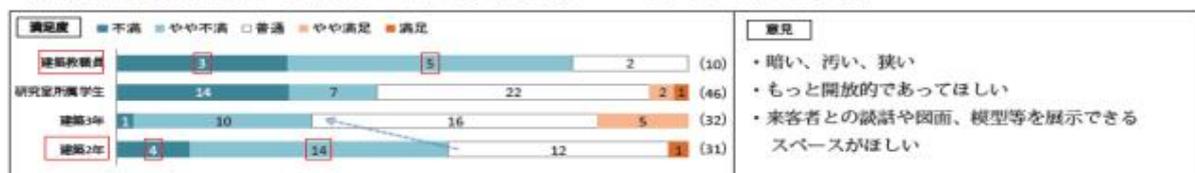
■製図室について

建築学コース3年生に「不満足かつ重要」が多い。 → デザインスタジオ整備による改善



■エントランスについて

教職員や在籍期間が短い2年生に「不満足」が多い。 → ラウンジ化による改善



■授業以外の学習スペースについて

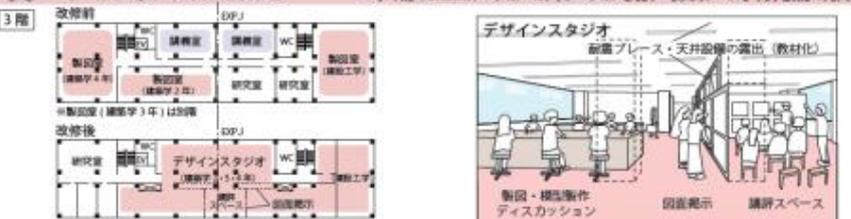
建設工学コース3年生に「不満足かつ重要」が多い。 → コミュニケーションスペース、アーカイブ(自習スペース)整備による改善



5

アウトプット 改修プランから特徴的なものを以下に抜粋する。

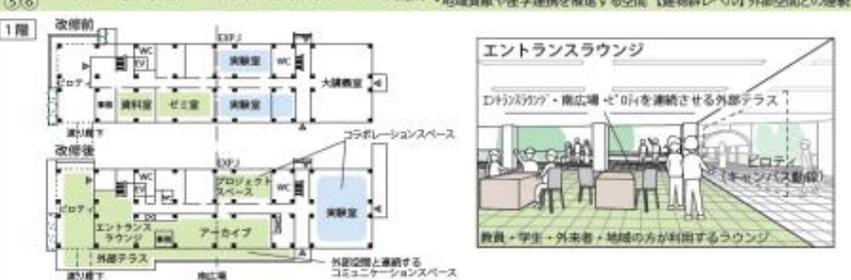
改修基本コンセプト ①② → オープンなデザインスタジオ



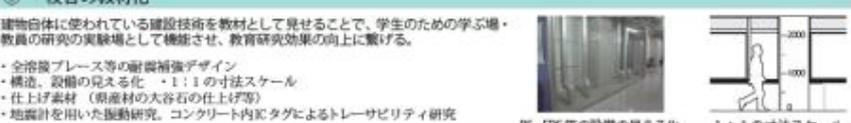
改修基本コンセプト ①③ → フレキシブルな研究スペース



改修基本コンセプト ①④⑤⑥ → コミュニケーション・コラボレーションスペースの創出



改修基本コンセプト ⑥ → 校舎の教材化



アウトプット指標

- 講義室のフレキシビリティ (可動家具の講義室数: 改修前0室 → 改修後5室)
- 異学年交流可能な教育空間 (改修前0% → 改修後 全講義室・製図室面積の60%)
- 研究室のオープン化 (3ユニット以上の室: 改修前0室 → 改修後9室)
- エントランス・コホーラススペース (改修前0㎡ → 改修後 約210㎡…エントランスラウンジ、コミュニケーションスペース4ヶ所)
- 地域等との共同利用 (改修前0㎡ → 改修後 約70㎡…プロジェクトスペース)

アウトカムとアウトカム指標

アウトカムについては、施設整備 (ハード面) とともに教育研究の改善 (ソフト面) が伴うことで効果が現れると考えられるため、中長期的に慎重な検討・検証が必要である。また定量的な指標だけでなく、内容的質的な充実として捉えるべきものをいかに評価するか、今後の検討が必要である。

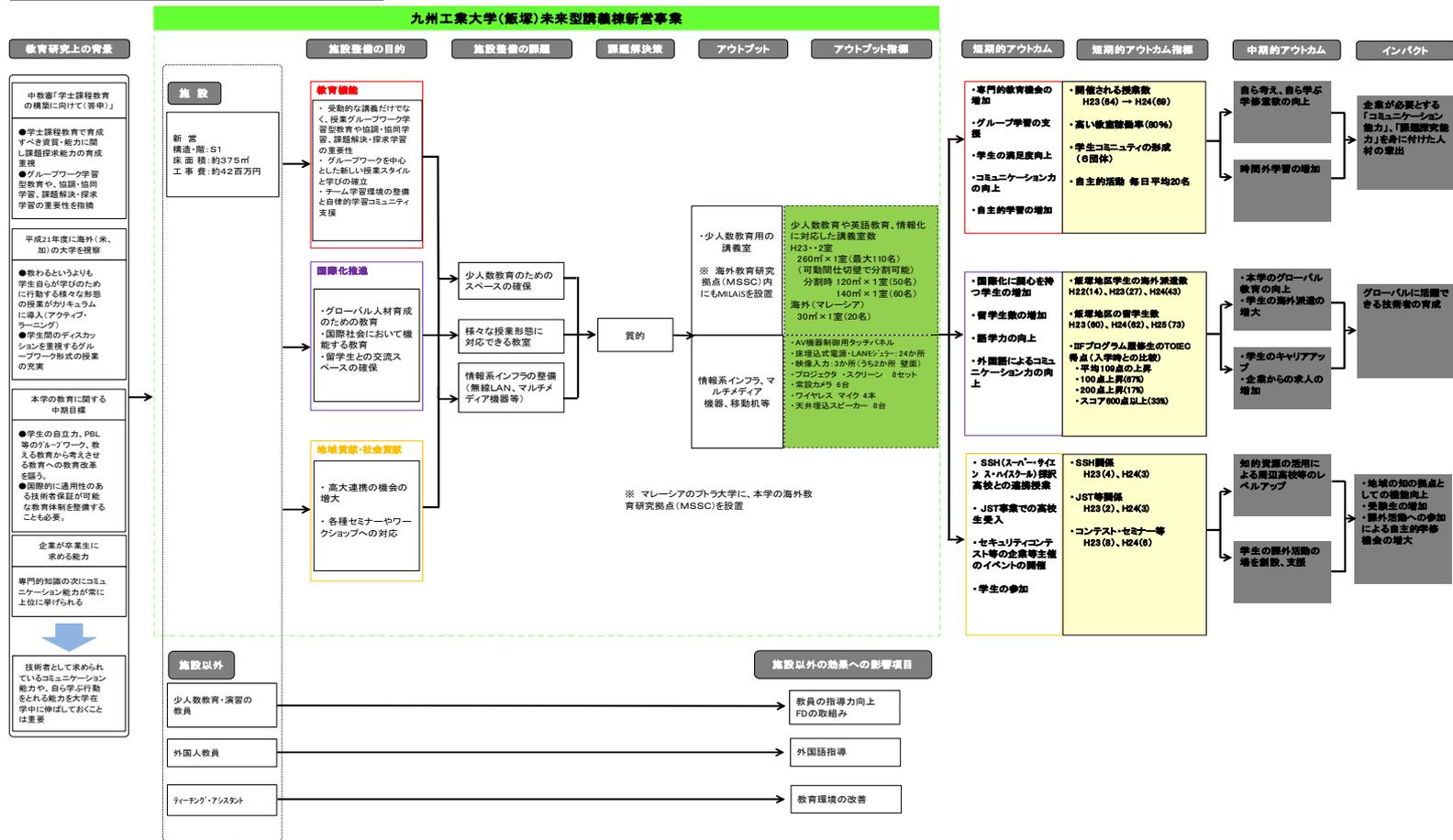
- 凡例 ■: アウトカム、[短]: 短期的アウトカム指標、[中]: 中期的アウトカム指標
- 教育環境の向上**
- 多様な活動が可能な教育環境 [短] 講義室・製図室に対する満足度 (アンケート調査)
 - 受給生、保護者の入学意欲・関心の向上 [短] 印象評価 (オープンキャンパス調査)
 - [短] 講義室の稼働率 (大学院講義でも活用) [中] 修士・博士課程への進学率
 - [短] 学生間の交流の機会 [中] 活動の74% 行(教育形態・活動数の変化)
- 学部学生の学習意欲の向上**
- [短] 自習スペースに対する満足度 (アンケート調査)
 - [中] 校舎滞在時間 (アンケート調査)
- 研究環境の向上**
- フレキシブルな研究環境 [短] 学生研究室に対する満足度 (アンケート調査)
 - [中] 学生主体のプロジェクト (共同コンペ) 数 [中] 受賞件数
 - [中] 教員間の共同研究数 [中] 論文投稿数
- 研究者の意欲の向上、質の向上**
- [短] 教員研究室・実験室に対する満足度 (アンケート調査)
 - [中] 留学生数 (大学院 建築7/40人、建設工学2/21人現在)
- 地域貢献の向上**
- 地域との積極的な交流 [短] イベントの開催数、来場者数 (全開卒業設計巡回展等)
 - 産学連携の機会やシーズの向上 [短] 外來者の満足度、印象評価 (アンケート調査)
 - [短] 地域の関係者が参加する研究発表会数 [短] 外部ゲスト招へいの発表会、講演会数
 - [中] 地域の問題解決型の研究テーマ数 [短] 外來者との本校舎での打合せ、発表会数
 - [中] 県内企業との共同研究数、獲得金額 [中] 共同研究数、共著論文数

6

【取組例3】九州工業大学

～大学の教育目標を踏まえた、学生の資質・能力を伸ばすための効果的な空間の創出～

九州工業大学(飯塚)未来型講義棟新営事業の効果発現シナリオ



インタラクティブ学習棟“MILAI's”：教室としての“MILAI's”

MILAI'sは、九州工業大学情報工学部に新設されました。
グループワークを中心とした、新しい授業スタイルと学びの確立を目指します。

<授業風景>



レクチャースタイル



グループワークスタイル



コンビネーションスタイル

<特徴>

効果的なアクティブ・ラーニングへの本学独自の答えを見つけ出すために、様々な授業形態に柔軟に対応できるよう設計

- ・教室面積：260㎡
- ・収容人数：90名(最大110名まで着席可)
- ・ネットワーク環境：有線及び無線LAN
- ・床埋込式情報コンセント：24カ所
- ・ホワイトボードを教室内壁面に設置
- ・可動間仕切りを活用し、授業がない時間帯の一部をラーニング commons として開放

